

読売 1/11付

健全化へ区が経営権

株57%取得 取締役、全員交代へ

足立区の劇場「シアター1010」の指定管理者である同区の第3セクター「足立コミュニティ・テイツ（ACA）」の経営問題を巡り、区が同社の過半数の株を取得し、古庄孝夫社長をはじめ取締役6人全員が退任することが16日わかった。この日開かれた区議会総務委員会で、区側が明らかにした。21日のACAの株主総会で正式決定する。

“お目付け役”副参事派遣も

退任する取締役のうち区は3人は、区幹部とその経歴が続き、区が実質的職員は1人のみだったのに、験者。同社については不明な経営権を握って健全化に対し、新任予定の7人のうち「明な公金の支出や赤字興行」乗り出す形。民間のノウハウ

ウを生かして効率化を図る指定管理者制度の狙いとは逆の、「民から官へ」という皮肉な結果となった。シアター1010は、北千住駅前の商業ビルに2004年8月にオープンした区立劇場。ACAはシアターを運営する区の指定管理者の第一号として発足したが、収益源の自主興行は赤字続きで、区は事前に取り決めのなかった区からの「事務手数料」約1億4700万円の受け取りをACAに認めざるを得なくなった。この手数料のため、ACAが帳簿上は黒字となり、多額の法人税が課せられる事態も起きていた。

この日の総務委員会で、大高秀明・区教委文化課長が委員の質問に答える形で説明。21日の株主総会で取締役6人が辞任し、新たに区の前収入役や区教委の担当部長、ビル内の大手百貨店の部長など7人が取締役役に選任される予定であることを報告した。また、区が個人株主に呼びかけて株を買い取り、これまで30

％強だった持ち株比率を、過半数の約57%まで増やし、なにも明らかにした。さらに、区から課長級の副参事をACAに派遣するための条例案が提案された。委員が「区職員の派遣でACAの経営体質を変える」ということかと質問したところ、区側は結果的にはそういうことになるとして、副参事が事実上、区からの「お目付け役」となることを認めた。

各委員からは「まるで民から官だ」などの意見が出たが、最終的に条例案には「株主総会は公開にすべき」という声が上がっているが、同社は「（区民から意見を募るといって）区の方針については聞いていないが、当社としては公開する予定はない」としている。

一方、同社は21日の株主総会について、「非公開」としている。株主の一部から「透明な運営のためには株主総会は公開にすべき」という声が上がっているが、同社は「（区民から意見を募るといって）区の方針については聞いていないが、当社としては公開する予定はない」としている。

株を買取り、これまで30